

DXS18

DXS15 mkII

DXS12 mkII

取扱説明書

- この取扱説明書では、主にDXS18を使って説明しています。
- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

はじめに

このたびは、パワードサブウーファーDXS18、DXS15mkII、DXS12mkII(以下DXS)をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本製品は、ライブSRや仮設PAなどでより豊かな低音域を再生するためサブウーファーを使用するときの設置や使用方法を説明しています。本製品のさまざまな機能を十分にご活用いただくために、ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになったあとも、大切に保管してください。

付属品

- 電源コード
- 3芯-2芯変換プラグ
- 取扱説明書(本書)
- Technical Specifications(スペックシート、英文)

ZZ20040

JA

保証書付

特長

●ハイパワー、大音圧、優れた低域再生能力

大音圧に有利なバンドパス方式を採用。高耐入力、低歪みのウーファー、1,020 Wのパワー・アンプを搭載し、優れた低域再生能力と大音圧を達成。

●最適な音づくりのための優れた機能

- D-XSUB: 再生周波数帯域をDSPでコントロール。さまざまな用途や音楽ジャンルに適した設定が選択可能。
- 選択可能なX-OVER: カットオフ周波数やLPF/HPFの連動/非連動が選択可能で、さまざまなアプリケーションに柔軟に対応可能。
- カーディオイドモード: 低域の指向性をコントロールし、スピーカー後方への音圧を減少させ、前方への音圧を増幅させることができます(DXSが2台以上必要)。

●高信頼性

高性能DSP制御でスピーカーとアンプを保護。厳しい環境下でも安心して使用可能。

●高耐久性

キャビネットの素材には堅牢な合板を、塗装には高い耐久性を誇るポリウレア樹脂を採用。

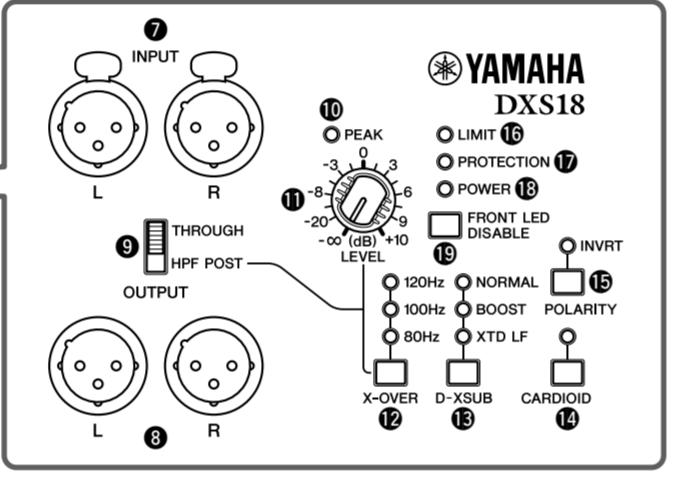
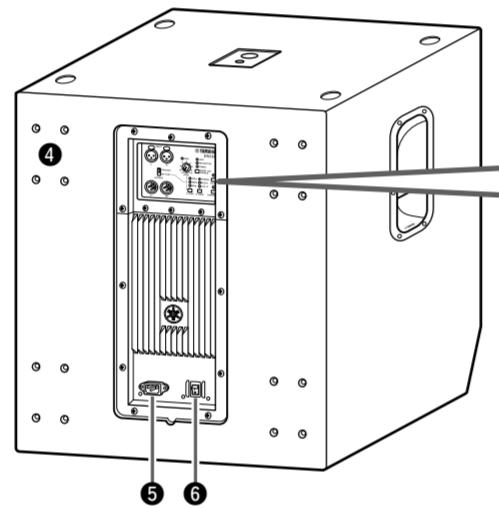
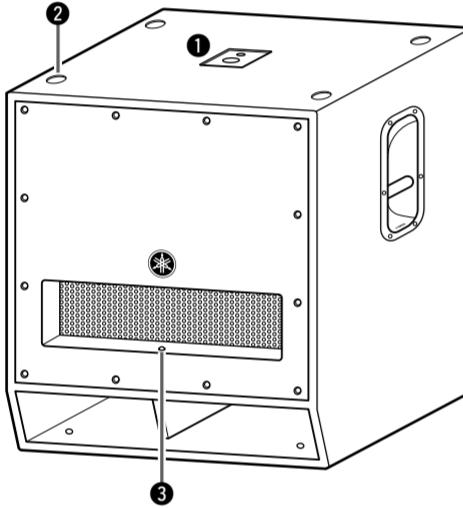
●使い勝手の良さ

φ35 mmとM20の両方に対応するデュアルポールソケットを装備。可搬性を高めるキャスター(オプション)を装着可能。

オプション品

- スピーカーカバー SPCVR-18S01(DXS18用)、SPCVR-DXS152(DXS15mkII用)、SPCVR-DXS122(DXS12mkII用)
- キャスター SPW-1(4個入り)

各部の名称と機能



①ポールソケット

市販品の35 mm径またはM20ネジのスピーカーポールに対応しています。取り付け方法は「スピーカーポールの取り付け」をご参照ください。

②ゴム脚受け

DXSを縦積みする場合は、上に積んだDXSのゴム脚を、このゴム脚受けに合わせてください。



注意
DXSを3台以上縦積みしないでください。

③フロントLED

電源がオンのときに点灯します。出力リミッターが作動すると、より明くなります。FRONT LED DISABLEスイッチ(⑩)で常に消灯にすることもできます。

④キャスター取り付け穴

オプションのキャスターSPW-1を取り付けることができます。取り付け方法や注意事項については、キャスターの取扱説明書をご参照ください。

⑤AC IN端子(V-Lock)

付属の電源コードを接続します。電源コードはラッチによるロック機構を備えています。最初にDXSと電源コードを接続し、次に電源プラグをコンセントに差し込みます。取り外すときにはラッチを押しながら外してください。



注意
電源コードを接続したり、取り外す前に必ず電源をオフにしてください。

⑥電源スイッチ

この機器の電源をオン(①) / オフ(⑩)します。

複数の機器を使う場合は、1台ずつ電源をオンにしてください。同時に複数の電源をオフにすると電源電圧低下などで機器が正常に起動しないことがあります。

電源のオン/オフを連続して素早く切り替えると、誤動作の原因になることがあります。電源をオフにしてから再度オフにする場合は、5秒以上の間隔を空けてください。



注意
電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

基本的なセットアップ

ミキサーなどの音源からの出力信号をDXSのINPUT端子に入力し、DXSのOUTPUT端子からの出力信号をフルレンジスピーカーの入力端子に入力します。

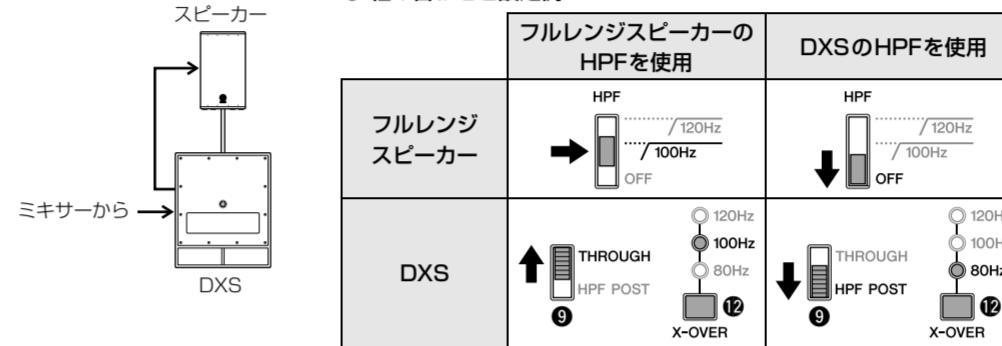
●X-OVERスイッチ(⑪)

DXSのクロスオーバー周波数(LPFのカットオフ周波数)とフルレンジスピーカーのHPFのカットオフ周波数を一致させることをおすすめします。DXSとフルレンジスピーカーから同じ域の音が输出されると、相互に干渉を起こして周波数特性が悪くなることがあります。

●THROUGH/HPF POSTスイッチ(⑫)

フルレンジスピーカーに適切なHPFがある場合は[THROUGH]に設定することをおすすめします。独立してレベルをコントロールでき、信号の遅延も最小限に抑えられます。フルレンジスピーカーにHPFがない場合やカットオフ周波数を揃えられない場合は、[HPF POST]にしてDXSのHPFを使用してください。

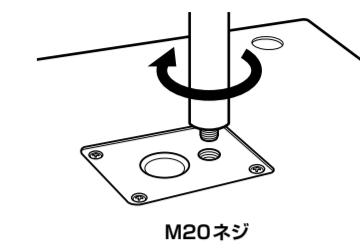
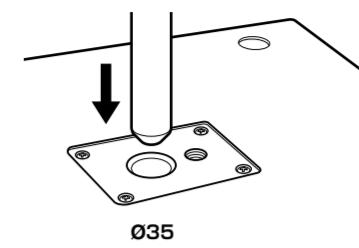
●組み合わせと設定例



注意
パワードスピーカーを複数つなぎに複数台接続している場合は、音源に近い機器から電源を入れ、音源に遠い機器から電源を切ってください。

スピーカーポールの取り付け

上にフルレンジスピーカーを乗せるためのポールソケットです。ポールソケットは35 mm径またはM20ネジの市販のスピーカーポールに対応しています。使用時は、必ず以下の条件を守るようにしてください。

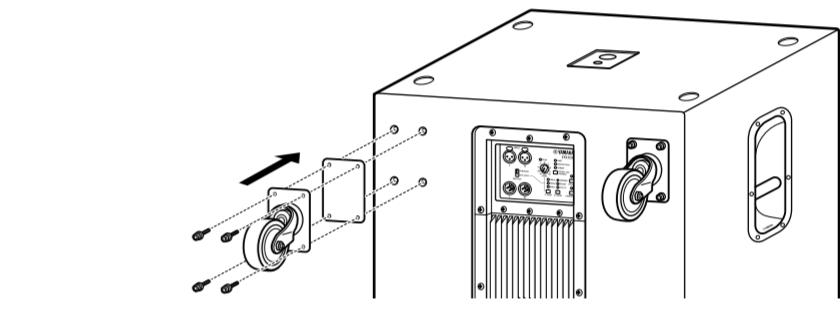


品番	上に乗せるスピーカー	ポールの長さ
DXS18	重量28.0 kg以下、高さ76 cm以下(DSR115)	120 cm以下
DXS15mkII	重量19.3 kg以下、高さ61 cm以下(DXR12)	100 cm以下
DXS12mkII	重量14.6 kg以下、高さ51 cm以下(DXR10)	82 cm以下
	重量13.5 kg以下、高さ46 cm以下(DXR8)	90 cm以下

キャスターの取り付け

DXSの背面にオプションのキャスターSPW-1を取り付けることで運搬が容易になります。キャスターの取り付けには、DXS本体に取り付けてあるネジを取り外して使用してください。ネジを外したまま使用しないでください。エア漏れにより音質に悪影響を及ぼします。

注意
・キャスターの取り付け方法や注意事項については、キャスターの取扱説明書をご参照ください。 ・SPW-1以外のキャスターを取り付けないでください。



困ったときは

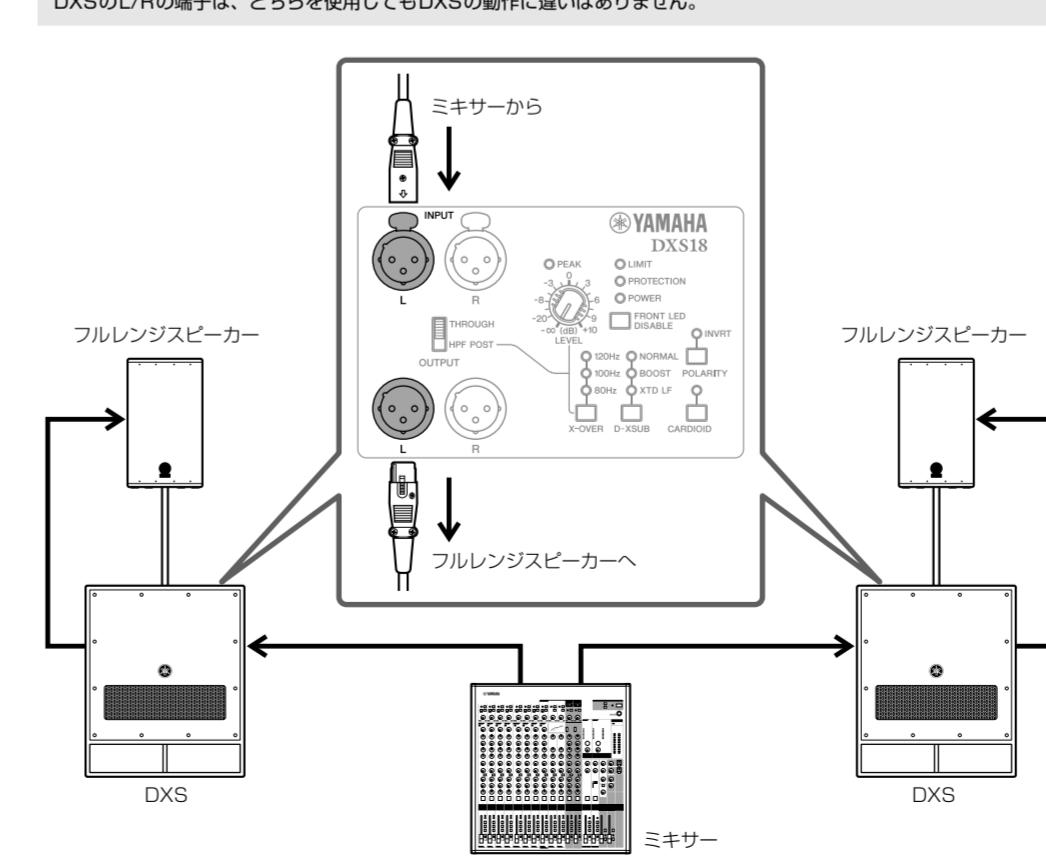
症状	考えられる原因	対策方法
電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードを正しく接続してください。
突然電源が切れた。	保護回路が作動して、電源がシャットダウンした。	いったん電源をオフにし、もう一度電源をオンにしてください。
音が出ない。	ケーブルが正しく接続されていない。	INPUT端子に正しく接続してください。
突然音が途切れた。	保護回路が作動して、出力がミュートしている。	アンプの熱が下がるまでお待ちください。自動復帰しない場合は、いったん電源をオフにし、もう一度電源をオンにしてください。
ハウリングする。	マイクがスピーカーに向いている。	マイクが音を拾う範囲からスピーカーを離してください。
各スピーカーの音が違う。(複数台使用時)	スピーカーの設定が異なる。	各スピーカーのスイッチの設定をすべて同じにしてください。
入力が過大である。	PEAKインジケーターが時々点灯するレベル以下になると入力機器側のボリュームを下げてください。	
音が歪む。	LIMITインジケーターが時々点灯するレベル以下になると出力が過大である。	LIMITインジケーターが時々点灯するレベル以下になると出力レベルを下げてください。

* 上記の対策を実施しても症状が改善しない場合は、ヤマハ修理ご相談センター(裏面)にお問い合わせください。

主な仕様

仕様	DXS18	DXS15mkII	DXS12mkII
形式	パンドラス型パワードサブウーファー		
再生周波数帯域(-10 dB)	32 Hz~120 Hz	40 Hz~150 Hz	42 Hz~150 Hz
最大出力音圧(実測値ビーカー)	136 dB SPL	135 dB SPL	134 dB SPL
ピックノイズ@1 m, 2π空間			
パワーアンプ	定格出力 連続	800 W	
	消費電力(1/8出力)	100 W	
コンポーネント	LF	18°コーン、4"ボイスコイル	12°コーン、2.5"ボイスコイル
寸法 mm(幅×高さ×奥行き、ゴム足含む)	563×683×721	480×611×614	400×567×570
質量	49.7 kg	36.0 kg	30.0 kg
ハンドル		スチール製、側面×2	
ポールソケット	φ35 mm(深さ80 mm)、M20(ネジ深さ25 mm)		
コネクター	入力 出力 電源	XLR3-31×2 XLR3-32×2(THROUGHまたはHPF POST) IEC AC inlet×1(V-Lock)	
入力感度(LEVEL: センター)	+10 dBu		
最大入力レベル	+24 dBu		

* 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。



カーディオイドモードのセットアップ

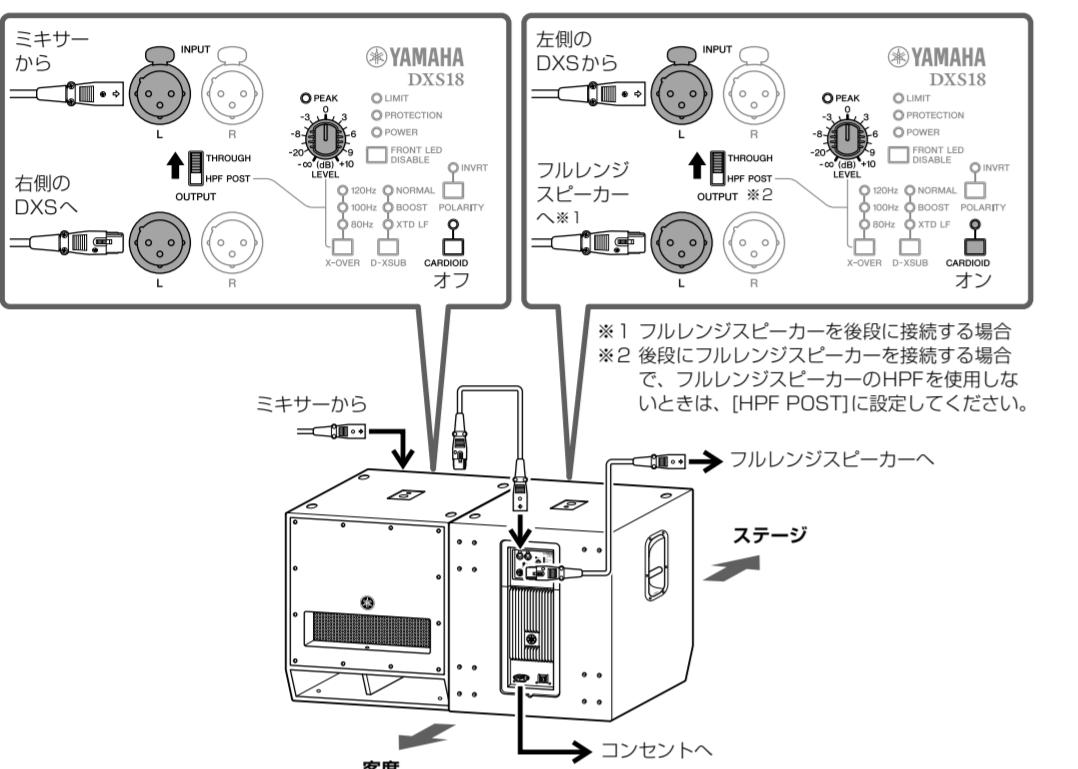
低音域は指向性が弱いため、サブウーファーからの出力は客席側だけでなくステージ側にも同程度の音圧で回り込みます。カーディオイドモードを使用すると、客席側への低音は足し合わされ、ステージ側への低音は打ち消し合います。ステージ側の音量を抑えてハウリングマージンを大きく取ることができます。客席側により大きく低音を出すことができるようになります。

NOTE

- DXSは同じ機種を使い、同じ信号を入力してください。OUTPUT端子を[THROUGH]に設定して数珠つなぎにして使うこともできます。
- カーディオイド特性を効果的に得るために、キャビネットは壁などから1.2 m以上離して設置してください。

2台を横に並べた配置

前後の向きを互い違いに配置します。客席に向いているDXSのCARDIOIDスイッチをオフ、ステージに向いているDXSのCARDIOIDスイッチをオンにします。それ以外の設定(LEVEL、POLARITY、X-OVER)は同じにしてください。

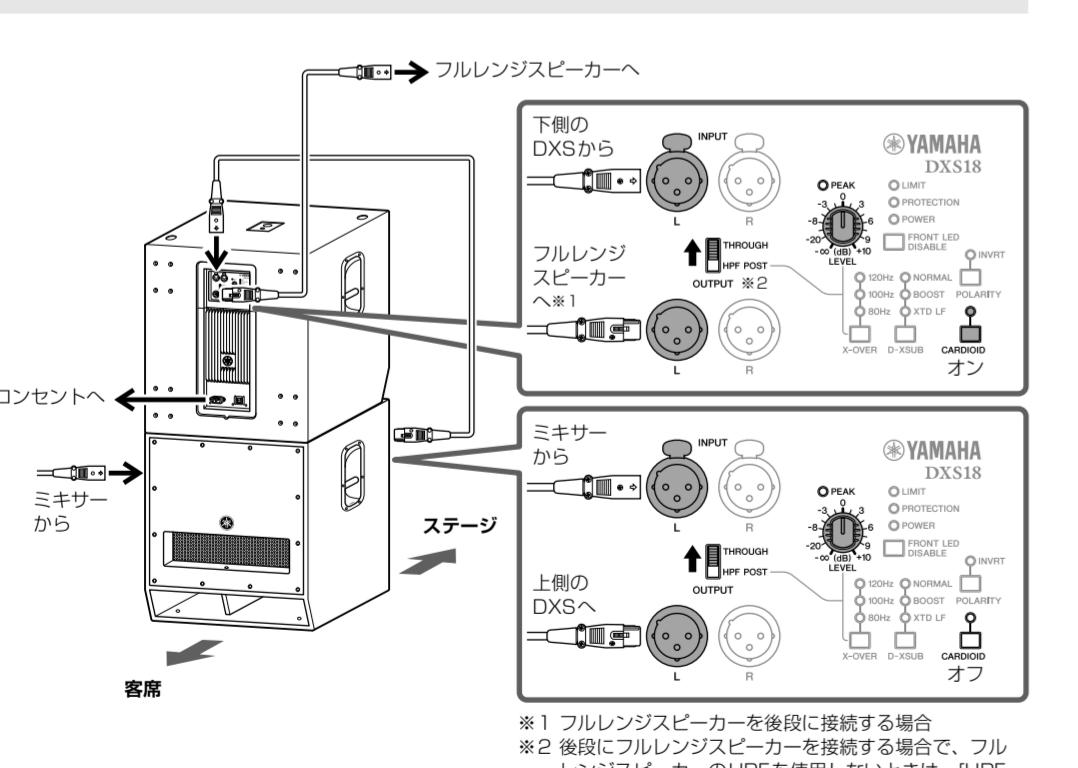


2台を縦積みした配置

2台のDXSを縦積みしてカーディオイドモードのシステムを構成することもできます。ステージに向いているDXSのCARDIOIDスイッチをオフにしてください。それ以外の設定(LEVEL、POLARITY、X-OVER)は同じにしてください。

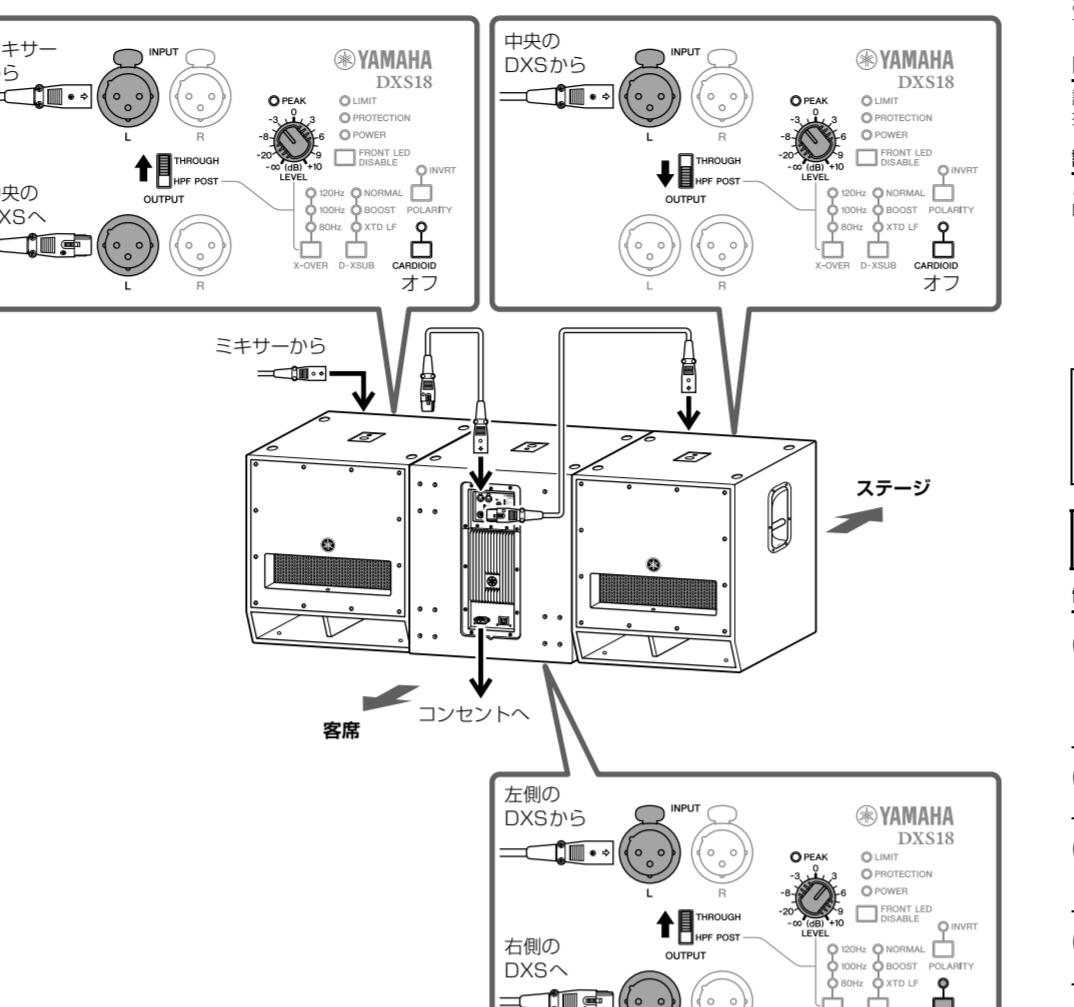
注意

- DXSを縦積みする場合、転倒しないようにご注意ください。
- 上段のDXSのゴム脚を、下段のDXSの天面にあるゴム脚受けに合わせて設置してください。
- DXSを2台縦積みした上に物(フルレンジスピーカーや他のDXSなど)を載せたり、スピーカーボールを押したりしないでください。



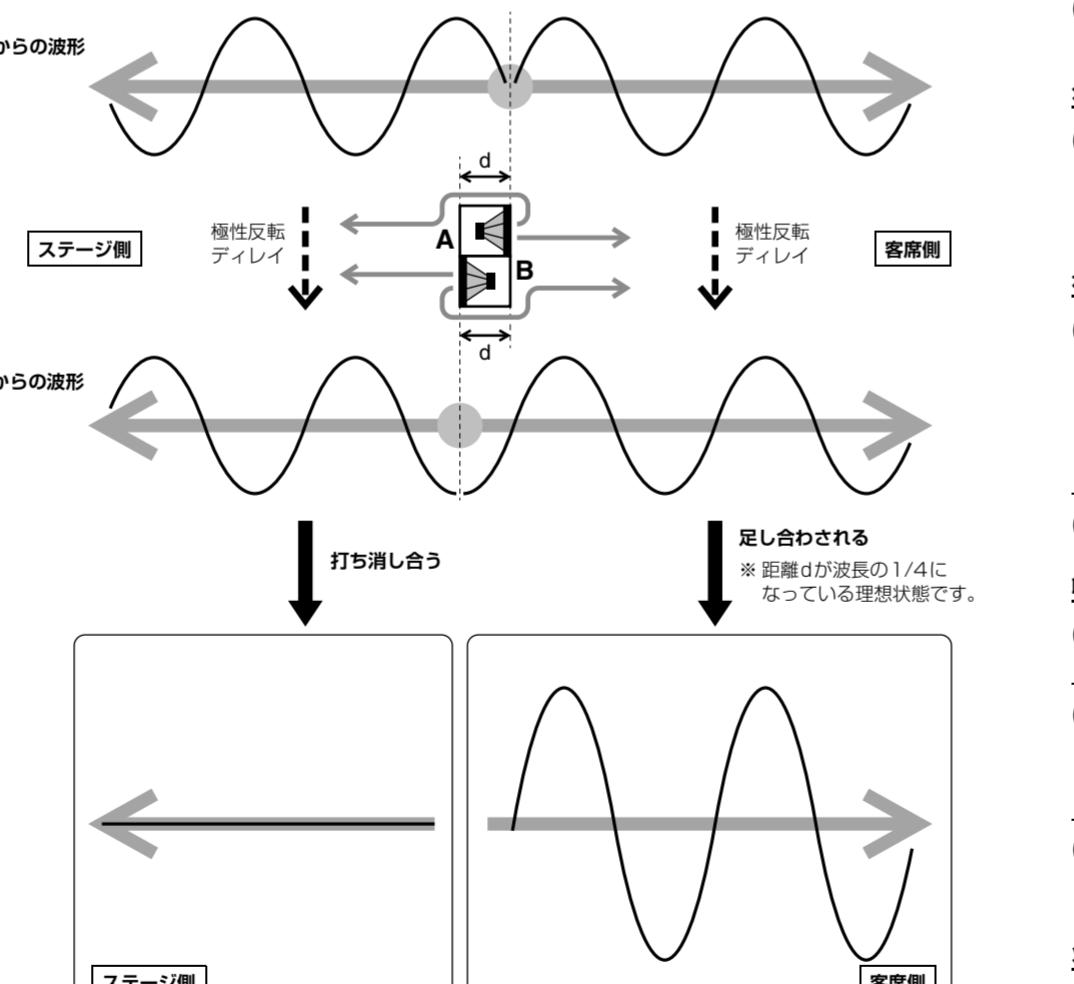
3台を横に並べた配置

ステージに向いているDXSのみCARDIOIDスイッチをオンにします。客席に向いている2台のレベルは同じにしてください。ステージに向いているDXSのレベルは、客席に向いているDXSより6 dBを目安に上げてください。



カーディオイドモードの仕組み

客席に向いているスピーカー(A)とステージに向いているスピーカー(B)の音源間の距離をdとします。Bからは、極性を反転し距離dに相当するディレイをかけた音を出します。



ステージ側では音が打ち消し合い、客席側では音が足し合わされます。この組み合わせの指向特性は右のボーラーパターンのようになります。この形が心臓の形に似ていることから、カーディオイドモードと呼ばれています。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになってあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」と「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危険や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



- この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにお依頼ください。
- 不適切な使用や改変により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

△警告

「死する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

電源コードが破損するようなことをしない。

- ・ストップなどの熱器具に近づけない
- ・無理に曲げない
- ・傷つけない
- ・電源コードに重いものをのせない

感電や火災の原因になります。

- 電源コードはこの機器に表示している電源電圧で使用する。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。
- 電源コードは必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードがほかの製品で使用しない。

故障、発熱、火災の原因になります。

- 付属の電源コードは日本国内専用(125Vまで)です。
- 電源コードにほりが付着している場合は、ほりをきついに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

- この機器を電源コンセントの近くに設置する。
- 電源アラームに常に手の位置に設置し、異常を感じた場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。電源アラームに常に手の位置に設置する。

感電や火災、故障の原因になります。

- この機器を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
- ケーブルをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりおそれがあります。

この機器を持ち運びする場合は、必ず3人以上で行なう。

- この機器を2人より下で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この機器が落して破損したり、けがをしたりする原因になります。

ボルトケットを握り難い状態で握る際は必ず「ビーパー・ボルトの取付け」の条件を守る。

- この機器が転倒して破損したり、内部の部品が傷つけたり、けがをしたりする原因になります。

お手入れ

この機器をお手入れするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

取り扱い

この機器のポート(前面の穴)に手や指を入れない。

- お客様がけがをするおそれがあります。

この機器のポート(前面の穴)から金属や紙片などの異物を入れない。

- 感電、ショート、火災や故障の原因になります。

入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源コードは、アースコードが付いている必要があります。

- 必ずアース線を接続してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

ボルトケットを握り難い状態で握る際は必ず「ビーパー・ボルトの取付け」の条件を守る。

- この機器が転倒して破損したり、内部の部品が傷つけたり、けがをしたりする原因になります。

接続

・接地接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行なう。

- ・接地接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行なう。

電源コードは、アースコードが付いている必要があります。

- 必ずアース線を接続してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

ボタニッシュイスク、入出力端子などに無理な力を加えない。

- この機器が破損したり、けがをしたりする原因になります。

電源プラグは保護接地されている適切なコンセントに接続する。

音がひずんだ状態ではこの機器を使用しない。

機器が発熱し、火災の原因になります。

接続されたケーブルを引っ張らない。

接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。

PA-8

注記(使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作を防ぐため、以下の内容をお守りください。

製品の取り扱い/お手入れに関する注意

アレルギーやアトピー、AV機器、音楽機器など他の電気製品の近くで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源アラームを鳴らしてください。

直射日光の当たる場所(日中の室内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動が多いところで使用しないでください。

この機器のバネはバネの形をしたたり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になります。

お手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。

東洋ペイントやシンナー、洗剤、化学apisなどは使用しない。

機器の周囲環境が極端に変化して機器の動作や急激な冷暖房などは、おそれがある場合、電源を入れずに数秒間放置し、結露がなくなつてから使用してください。

バネ前面を下にして置く場合は、平らな場所に置いてください。

スピーカーカーナックには触れないようにしてください。

スピーカーから音が吹き出す場合がありますが、この機器の故障ではありません。

使用後は、必ず電源スイッチをオフにします。

コネクターに関する注意

XLRAタイプのコネクターのピン配列は、以下のとおりです

1: グラウンド(GND), 2: ホット(+), 3: コールド(-)

やむをえず接続のバランス(平衡)出力をアンバランス(不平衡)機器に接続する場合は、必ずアンバランス側の端子に接続する。

機器の周囲環境が極端に変化して機器の動作や急激な冷暖房などは、おそれがある場合、電源を入れずに数秒間放置し、結露がなくなつてから使用してください。

アンバランス端子間に接続ケーブルを接続する場合は、必ずアンバランス端子間に接続ケーブルを接続してください。

アンバランス端子間に接続ケーブルを接続する場合は、必ずアンバランス端子間に接続